



読解ドリルはじめました

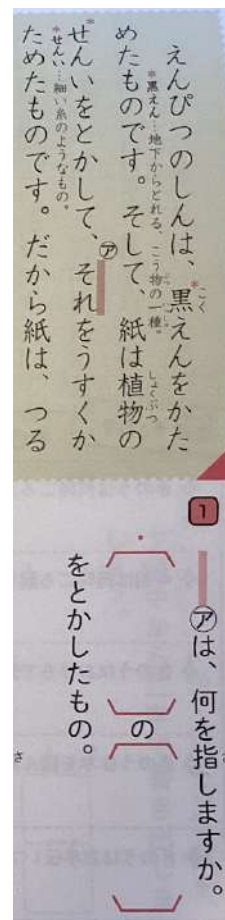
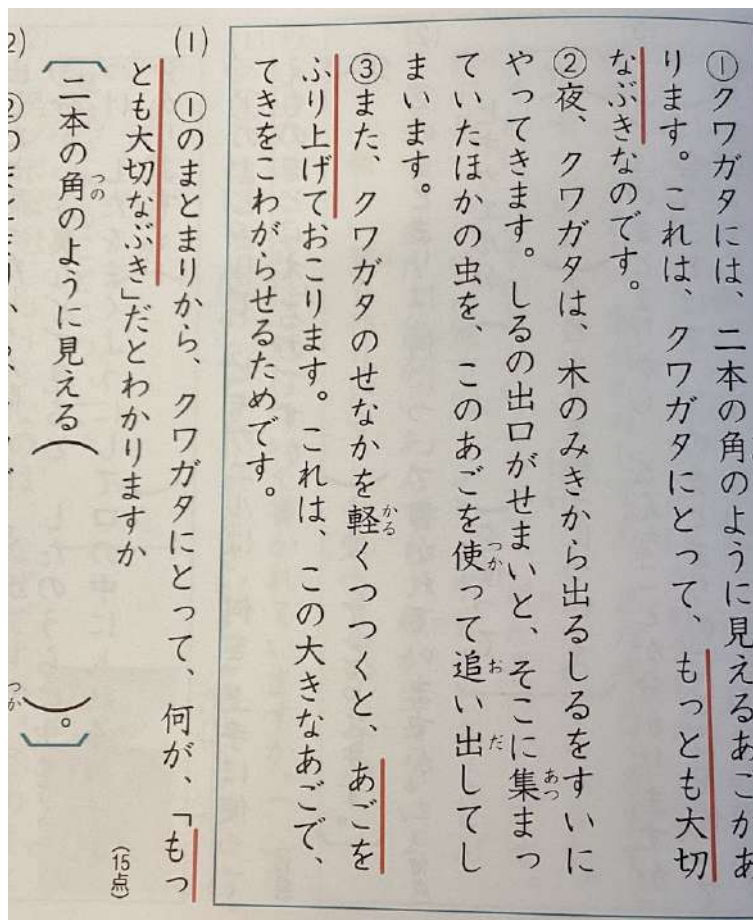
夏休みが終わりました。漢字の学習が順調に進んでいるので、3年生でも読解ドリルに取り組み始めました。

多くの子が自立して学習する姿勢が身についているので、2年生の時とは違い、授業ではなく、家庭学習や学校での自習の教材として取り組みます。

読解ドリルは、「**読む→理解する→必要な情報を取り出す→自分の考えを表す**」という国語の思考力の基礎（赤字の部分）を身に付けるのに役立ちます。

また、短く分かりやすくまとめた文章を読むことで、知識を増やしたり語彙が増えたりする効果もあります。

学年ごとに習得したい力を重点的に鍛えられます。3年生なら、登場人物の会話や様子から心情を読み取ること、言い換えや指示語の内容を理解することなどが重点内容です。



【言い換えと指示語の内容理解を効果的に身に付けられます】

子どもの読解力に合わせていくつかのドリルを使っているため、子どもたちもすらすら読んで解けるのがとても楽しいようで、ものすごい意欲と勢いで取り組んでいました。

「毎日3ページやる!」「週に5ページ進める!」など自分で目標を立てる姿も素敵でした。さっそく翌日の朝のマイタイムから読解ドリルをやっている子、「家で10ページやってきた!」と嬉しそうに報告してくれる子もいて、とても感心しました。

小学校で身に付けたい読解力は、国語科でははっきりと整理されています。

4年生では、より丁寧な気持ちの変化の読み取りと短くまとめる言い換えができることが目標になります。5・6年生では、筆者の主張と根拠の読み取りと図表との関連の理解を目標にしています。

どのドリルも毎日1ページ取り組めば、2か月もかからずに学年の内容を身に付けられるので、毎年取り組むことをおすすめします。

ただ、読解ドリルは読解力の基礎を養う効果はありますが、それだけでは真の読解力ついたとは言えません。

深い読書体験から得られる集中力や共感力、想像力は、よい物語と出会い、感動する体験が必要です。社会的な本や科学的な本から知識を得る経験も大切です。

引き続き読書習慣の定着を図っていきましょう。

大人が本を読んでないと子どもも本を読まない

このようなことをよく言われます。おそらく、実際その通りなので、自分も読書しないとなあと日頃から思っていますが、忙しさにかまけて読まない時期が続くと、いざ読もうとしてもなかなか話が入ってこず、読書が進みません。

ひどいときは1ページ読んでいるうちに眠たくなったりすることも・・・

そんなときは、できるだけスマホを離れたところにおいて読むようにしています。

(近くにあるだけで集中できなくなるそうです)

読書は子どものころから好きでしたし、今でも好きなので、自分の子どもたちが中学生ぐらいになって、大人と同じ本が読めるようになった時にたくさんいい本を紹介できるように、これからもできるだけ読書が続けたいなと思っています。



右の本はこれまで読んできた本の中で最もおもしろく、思い出に残っている生き物情報のたっぷりのSF小説です。買ったその日、わくわくしながら読み進め、ページをめくる手が止まらなかったのを今でも覚えています。興味がある方はぜひ読んでみてください。今度子どもたちのビブリオバトルがありますが、大人がおすすめの本や好きな本を紹介し合う場がもしあったらすてきだなと思っています。